

ふちらいふ

らいふ通信

lifsea
株式会社リフシア

HP / http://lifsea.co.jp
らいふ日記 (スタッフブログ)
green.ap.teacup.com/lifekaigo

2017春Vol.47

2016年4月の熊本地震において、初動の安全確保など統一訓練を3月と9月に実施しています。

訓練当日の様子(リフシア香川)

9:03

地震発生後、就業中職員で各担当を決める



9:05

それぞれの担当で行動開始する



施設外の物置から備品を運び入れる(発電機等)



ライフライン停止のため、貯水槽から水をくみ取る



10:00

各担当の報告をまとめ、本社本部へ連絡



今年3月の訓練で、備えるべき本部機能の具体的な課題を話し合いました。

↓いざという時に備えて、ポケットタイプの防災カードも作りました。



リフシアBCP委員会



茅ヶ崎市防災用無線を設置しているリフシア萩園では月1回通信試験を行っています。

長期化する避難生活者に、2次予防の観点からリハビリチームがかかわり、誤嚥性肺炎を予防するため口腔ケアに入る歯科医・歯科衛生士も多くいました。私たちも、福祉避難所の運営も想定し、備えなければなりません。

リフシアのBCP(事業継続計画)と訓練報告 東日本大震災、熊本大震災の教訓を 風化させず介護施設で取り組む

リフシアBCP委員会



リフシア神奈川の訓練の様子。各事業所の訓練報告をBCP委員会にて検討、9月の訓練へ



編集後記

今号は、大規模災害に備えるBCP委員会の取り組みや、リフシアフェスタの報告に加え、新しく始まるリフシアの転倒予防・元気になる教室の紹介など盛りだくさんの内容になりました。それから、リフシア矢畑の内覧会もご紹介しています。気持ちが活動的になるこの季節、ぜひ様々な催しにお出かけください。お待ちしております。



らいふ通信「ふちらいふ」春号 Vol.47
2017年4月15日(季刊発行)
編集/ふちらいふ編集室
〒253-0071 神奈川県茅ヶ崎市萩園 2822-1
TEL0467-55-5102 FAX0467-55-5103
発行/株式会社リフシア

くだものシリーズ⑥ 桃



桃といえば、「お花をいけましょ桃の花。」とサトーハチロー作詞の「うれしいひなまつり」に歌われ、その花は三月のひな祭りの頃咲き、夏には美味しい実をつける。外形に似合わず種は硬くて大きいのも特徴です。

バラ科の植物で中国が原産です。日本では弥生時代の地層から種が見つかっています。古くから日本各地に自生していましたが、主に食用として栽培され始めたのは江戸時代からで、その後、明治時代に中国から水蜜桃が輸入されてから本格的な栽培が始まりました。

さて、果物の「桃」は一先ず置いて、「桃」に関する色々な話を紹介します。桃は古くから中国や日本の歴史に登場する果物です。日本の神話を記した『古事記』に、黄泉の国からの脱出する際、イザナキ(男神)がイザナミ(女神)に桃の種を投げつけて退治したとあります。

また桃の図柄はお印(おしるし)として皇族が身の回り品や贈り物などのシンボルマークに使われております。お伽話の桃から生まれて鬼退治をするという『桃太郎』は勧善懲悪的な話ですが痛恨な冒険物語です。桃太郎の縁の地は全国各地にあるようですが、吉備の国(岡山)が一番多い

ようです。

桃源郷という言葉も良く耳にします。中国の古書から採った言葉で、楽園、ユートピア、不老不死の老人が住む里だとも言われています。

『桃李ものいわざれど下おのずから蹊を成す』は中国の『史記』という本に出ている言葉です。桃は何も言わないが実が美味しいので人が集まり、その下には自然と道ができる。立派な人のもとには自然と人が集まることという例えです。

松坂桃李という茅ヶ崎出身の若手の人気俳優が活躍しています。本名が芸名だそうですから、親が上記の故事から名付けたのでしょうか。

『李下に冠を正さず』という諺も有名です。李はスモモのことです。人前で疑われるような行動をとるなどという意味です。

話が少し長くなりましたが、果物の桃に戻りましょう。

漱石の小説『三四郎』で主人公が熊本から上京する際、岡山付近で水蜜桃を食べながら、広田先生と天下国家を論じる面白い場面があります。現在食べられているのは栽培改良された水蜜桃種の白桃系の桃が圧倒的に多いようです。昔は岡山が産地と言われていましたが、最近では山梨県や福島県など各地で栽培されています。(井)

リフシア矢畑 内覧会 4月21日(金)・22日(土)

予約不要

午前10時～午後4時

お気軽にお立ち寄りください

2017年5月1日オープン

看護小規模多機能型居宅介護

グループホーム



提供するサービスの説明会を同時開催します。(午後1:30～2:30)ぜひこの機会にご参加ください。

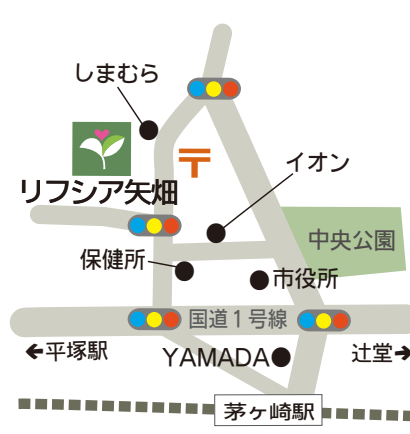


オープンに向けた研修、準備風景

☎0467-38-5533

〒253-0085 茅ヶ崎市矢畑 63-1

担当:品川・小玉



これからの暮らしを支えるサービス リフシアフェスタ

リフシア
FESTA
2017.3.18.



講師の原田和巳氏
（理学療法士）



体と頭と心を使って、講座は毎回満席でした。



来場者にアンケートで生の声を聞き取るスタッフ。



タンポポコーナー



栄養士に食事の相談をする
ご家族の姿もありました。

特に来場者が絶えなかったのは、ハッピーらいふカレッジミニ体験コーナーでした。リフシア健康呼ばう事業を担当している原田和巳氏（理学療法士）は、茅ヶ崎市の転倒予防教室やすこやか支援事業を担当してきた実績があり、このコーナーの参加が目的という人もたくさんいました。開場と同時に座席がうまい大好評で、講座の合間にゲームが始まり、楽しく交流されました。皆さんの声に押されて、4月からリフシア独自の新しい予防教室がスタートします。期待が膨らみます。



ゲームに集中する皆さん。

ハッピーらいふカレッジ 体験コーナー



おもちゃは世代を超える！一緒に遊ぼうね。

リフシアフェスタは高齢者向けの食事を提供している（株）リフシアネット「タンポポ（セントラルキッチン）」との共同企画です。煮物（介護食・嚥下食）の試食を用意し、栄養士が食事の説明をしました。ゴボウやシイタケなど素材の香りや、その柔らかさに調理方法の質問がたくさんありました。かわいなお客さんも来てくれ、世代を超えてご来場いただきました。介護保険に関するパネル展示や、利用しているお客様の渾身の作品を熱心にご覧いただいた皆さま、誠に有難うございました。心より感謝申し上げます。



展示コーナー



3月18日、ラスカ茅ヶ崎6階ホールを会場にリフシアフェスタが開催されました。「長寿社会を迎え、いつまでも健康に過ごしたい、でも介護が必要になったら…」という誰しも不安に感じるテーマに、私たちが活用できる制度やサービスの紹介を地域に発信しよう、とリフシアのスタッフが力を合わせて取り組みました。

初めての試みでしたが、「介護の悩みを抱えている、現在サービスを利用しているといったご家族」「健康長寿の備え・転倒予防・認知症予防に関心を持っている」「チラシを見て遊びに来た」という人が沢山会場を訪れてくださいました。



リフシアを利用している皆さんの作品も展示しました。



沢山ある中の一部ですが、どの作品も素晴らしい！！



相談コーナー



担当者は、わかりやすい説明と話しやすい雰囲気大切にしました。



また、スタッフがインタビュー形式で「介護サービスを選択するとき」に大事に思っていることを聞き取りました。結果は、第1位・接遇で明るくやさしいスタッフが、第2位・リハビリが充実している、でした。これからの介護業界に、スタッフの接遇研修や介護技術向上の研修、機能訓練プログラム充実が必須で、リフシアが現在特に力を入れている内容でもあります。

相談コーナーには、成年後見制度やエンディングノートの書き方、自宅で介護を続けたいので詳しい制度やサービスを教えて欲しいといった方がみえ、司法書士、相続診断士、ケアマネジャー等の専門職がそれぞれにお応えしました。利用できる制度やサービスはあるのに、相談先に行き当たらない、対面で説明を聞かないとわかりにくいと感じている人が多く、地域の中で積極的に情報発信する姿勢がこれからも重要といえます。